

ももたる便り

春号

April 2015



ポカポカ陽気の春がやってきました。皆様はいかがお過ごしでしょうか。クリニックでは3月末に旭川河原に出かけ、毎年恒例のお花見を楽しんできました。当日はまだ『さくらカーニバル』が開催される前で3～4分咲き。それでも日中は20℃を超える気温で暑いくらいでした。

さて、当院はこの4月で5周年を迎えました。これもひとえに当院を支えてくださった皆様のおかげです。心より感謝申し上げます。今後も職員一同、より良い在宅療養を提供できるよう努力して参ります。

お知らせ

4月・5月の連休にともない、訪問日の調整をいたしました。ご協力いただきましたありがとうございました。



ナースももこ

新人紹介

3月から入職しました高林と申します。母の介護で興味を持った在宅医療ですが、実際に従事してみると本当に奥が深くとても日々が充実しています。在宅医療のスペシャリストになれるように頑張ります。



【看護師】

たかばやし かな
高林 加奈

Dr.佐能の時事コラム

【2025年問題】

我が国は2007年に超高齢社会となり、現在は4人に1人が65歳以上となっています。2025年には団塊の世代が75歳以上となり、4人に1人が75歳以上になると推測され、2025年問題と呼ばれています。我が国は戦後に国民皆保険制度が確立し、高度成長時代から経済活動の妨げになる出産、病気の療養、死は全て病院で行われるのが当たり前になってきました。病院に年単位で入院している方もありました。

低成長時代・超高齢社会を迎えた今、厚生労働省の旗振りで病院は機能分類され、短期の入院で病気の集中治療を行う急性期病院と療養リハビリを主にする療養型病院に分かれてきました。しかし住民や医師の「専門家」

という言葉へのこだわりや病院経営管理者の急性期病院志向は強く、結局多くの病院（病床）は、介護を行いながら療養リハビリを主に担当する病院（病床）に変化することなく新築改築し、急性期の病院のままであり続けて2025年を乗り切ろうとしています。

岡山でもそういった傾向があり、2025年には急性期病床は余り、介護療養リハビリ病床の不足が起こると言われています。また在宅で療養する患者さんが一層増えることが予測されるにもかかわらず訪問診療が根づいておらず、訪問看護師の不足もかなり深刻です。医療関係者の意識の改革と早期の対応が必要です。

TOPICS

～介護マークについて～

認知症の方などの介護は他の人から見ると介護していることが分かりにくいいため、誤解や偏見を持たれることがあります。このため、介護する方が介護中であることを周囲に理解していただくために静岡県において『介護マーク』が作成され、全国的な周知・普及が図られています。このマークを見かけたら温かく見守って下さい。



『介護していることを周囲にさりげなく知ってもらいたいとき』『駅やサービスエリアなどのトイレで付き添う時』など



お問い合わせ先：岡山県 保健福祉部 長寿社会課
(<http://www.pref.okayama.jp/page/281259.html>)



支える医療へ 医療法人ザイタック ももたろう往診クリニック

☎ : 086-242-3232 Fax : 086-242-3233 URL : www.momotaroclinic.jp